

新地場産きのこ生産技術開発試験

平成10年度～15年度(国補)

西井孝文・坂倉 元

県内では、ヒラタケ、シイタケ等食用きのこの人工栽培が盛んに行われているが、他県産きのこの競合や食嗜好の変化等により県内産きのこの需要が減少し、市場競争力を失いつつある。そこで、味、商品性ともに優れ、将来有望であるハタケシメジおよびオオイチョウタケを中心に、栽培技術の高度化を図るために以下の試験を実施した。

1. 自然条件下でのハタケシメジの菌床埋め込みによる発生試験

バーク堆肥3ℓ、米糠125g、ビール粕250gの割合で混合し、含水率を63%前後に調整した培地をポリプロピレン製の袋に2.5kg詰めた。1.0気圧、温度118℃で90分間殺菌の後、ハタケシメジ種菌(亀山1号)を接種し、温度23℃、湿度70%の条件下で80日間培養した。4月下旬に、この菌床2個を、15ℓの園芸用プランタ1個に8ℓのバーク堆肥を使用して埋め込み、林業研究部構内および大宮町内のシイタケ人工ほだ場、白山町内の資材倉庫において発生試験を行った。

菌床埋め込み後、表面をわらで覆い、乾燥しないよう散水管理を行ったところ、いずれの条件下でも約1ヶ月後に1菌床あたり500g程度の子実体が発生した。

2. ハタケシメジ交配株の発生試験

林業研究部で継代保存しているハタケシメジ野生菌株LD96-8と、栽培系統の亀山1号について、単孢子分離による交配株を作出し、菌糸伸長の良好なものについて、850ccポリプロピレンビンによる発生試験を実施した。

結果は表-1のとおりで、交配株Hcにおいて、覆土処理なしでも、形状の良好な子実体発生が認められたが、子実体の硬さが亀山1号と比較して柔らかかった。

表-1. ハタケシメジ交配株の子実体発生量

系 統	供試数(本)	覆土処理	平均子実体発生量 ($\bar{m} \pm SD$) (g)	きのこの形状
亀山1号	16	有	133.7 ± 14.26	良好・硬
交配株Ac	16	有	114.5 ± 17.94	良好・やや硬
交配株Hc	16	有	121.1 ± 16.35	良好・やや軟
亀山1号	16	無	145.1 ± 10.22	奇形多・硬
交配株Ac	16	無	114.4 ± 20.68	やや奇形・やや硬
交配株Hc	16	無	128.8 ± 25.57	良好・やや軟

3. オオイチョウタケの林地埋め込みによる発生試験

2001年10月にオオイチョウタケ菌床を埋め込んだ試験地4カ所で、2002年秋に引き続き2003年秋にも子実体の発生が認められた。いずれの試験地でも、子実体の発生範囲は広がっていたが、発生量は減少した。